

「未来の豊岡市を担う人材を育成」 豊岡稽古堂塾第1期生研究発表会開催

「豊岡稽古堂塾」は、政策やビジネスプランを作るために必要な理論、理念、スキル等を民間の方と市職員が共に学び、戦略的に考え、効果的に実行する力を身に付けた、将来の豊岡市を担う人材を育成する塾です。

昨年6月の開校以来、さまざまな分野の講師を招き、ビジネスプランづくりやマーケティング手法など、22回の講義が行われました。

3月6日、第1期生の研究発表会が豊岡稽古堂で開催されました。



▲「心を動かすスピーチ」を受講



▲ビジネスプランを発表

塾生は4班に分かれ、10カ月間学習した内容をもとに、その成果を発表しました。

人口減少を見据えた「アウトドア・アクティビティによる人口増加策」や「とよおかいクメンプロジェクト」、「市立図書館で幼児期からシニア世代まで一貫教育で、未来の人材を育成する政策」、「レストラン経営のビジネスプラン」が提案されました。発表の後、活発な意見交換が行われ、講師の皆さんが講評しました。

「自信を持って競技に挑んで」 「ぐんま冬国体」出場選手激励会開催

2月16日、第70回国民体育大会冬季大会「2015ぐんま冬国体」に出場する本市出身選手の激励会を開催しました。

出場するのは、ジャイアントスラローム男子監督・岡森且哉さん、少年男子ジャイアントスラローム・田中太規さんと井上和真さん、少年女子ジャイアントスラローム・増田菜々子さん、成年男子Cクラスカントリィー・佐古昌洋さんの5人です。



▲(左から)増田選手、井上選手、中貝市長、田中選手、岡森監督

中貝市長は「周りの選手が強く見えるだろうが、他の選手もその選手が強く見えているだろうから、自信を持って頑張ってきてください」と激励しました。

「災害時のエネルギー確保にも貢献」 但東町三原区太陽光発電・非常用電源完成説明会開催

三原区(但東地域)は、県の「エネルギー自立のむらづくり支援事業」の認定を受け、太陽光発電設備と災害時に利用する地区避難所の非常用電源となる蓄電池設備などの設置を進めてきました。

工事が完了し、2月23日、高齢者生活支援センターみはらで、同区主催の完成説明会が開催されました。



▲設置した太陽光発電設備

「主な市政の動き」

【2月】

- 11日・豊岡市歴史的建築物保存活用検討委員会
- 12日・コウノトリの飛来地・韓国から招くモニターツアー(14日)
- 16日・第70回国民体育大会冬季大会出場豊岡市出身選手激励会
- 19日・観正寺庭園(気比)が県指定文化財に指定

- 23日・市民安全確保推進会議
- 23日・但東町三原区太陽光発電および非常用電源完成説明会
- 24日・豊岡市地域公共交通会議
- 25日・タイ国際旅行フェアに出展(3月1日)
- 27日・市議会定例会開会(3月26日)

【3月】

- 3日・豊岡市防災会議
- 5日・外国人用「リビングガイド」配布
- 6日・豊岡稽古堂塾第1期生研究発表会
- 10日・豊岡市ものづくりセミナー
- 12日・航空機連携山岳救助訓練

豊岡生まれの「コウノトリ」が取り持つ縁

韓国との交流を目指すモニターツアー実施

2月12日から14日まで、コウノトリを通じた交流が活発になっていく韓国の方々を招いたコウノトリモニターツアーを開催しました。

昨年3月、豊岡生まれの1羽のコウノトリが初めて国境を越え、韓国に渡りました。

「ポンスニ」の愛称で呼ばれるこのコウノトリを見ようと、慶尚南道・金海市への来訪者が急増しています。また、ポンスニの飛来は、新聞報道やドキュメンタリー番組の放映



▲巣塔のコウノトリを観察する参加者

によって、韓国全土に広まりました。韓国では、今年放鳥が予定されていることもあり、コウノトリや本市への関心が高まっています。

市では、環境体験プログラムと観光を一つにしたエコツアーを構築するため、今回のモニターツアーを行いました。

参加者の意見は、今後のツアー造成に生かします。

また、新たに、在住外国人が災害から身を守るために必要な情報を掲載した「豊岡市防災ハンドブック」を作成しました。風水害や地震への備え、避難方法、情報を得る手段などを掲載し、災害時に役立つ日本語も記載しています。

誰もが暮らしやすいまちづくりを進める、英語版の「豊岡市リビングガイド」「豊岡市防災ハンドブック」を発行

在住外国人が、本市で暮らす上で役立つ生活情報を掲載した「豊岡市リビングガイド」(改訂版)を作成しました。改訂版では、県営・市営住宅、



▲豊岡市リビングガイド

特定公共賃貸住宅や結婚・妊娠・出産の情報を追加。医療情報を拡充しました。

また、新たに、在住外国人が災害から身を守るために必要な情報を掲載した「豊岡市防災ハンドブック」を作成しました。風水害や地震への備え、避難方法、情報を得る手段などを掲載し、災害時に役立つ日本語も記載しています。



▲豊岡市防災ハンドブック

リビングガイドは3月から配布、防災ハンドブックは4月3日から、市役所や地区公民館などで配布します。

中貝市長の徒然日記 89

お話の箱

くしゃみをしながらめったにしない部屋の片付けをしていると、手作りの絵本が出てきました。5歳のころの娘の話と絵を妻が装丁したものでした。「ゆかいなもりにもみのきが いっぱんありました。その いっぱんのきは いちばんやくにたつきでした。なぜならそれはクリスマスにはきれいなツリーになるからでした」

読みだすと、もう掃除どころではありません。普段なら家で役立たずの市長を叱責する妻も懐かしくて、しばしの平和が訪れました。当時息子と娘に盛んに本を読んでいた妻は、今は毎晩孫に読み聞かせをしています。

「クシユラの奇跡」という本があります。複雑な障害を負って生まれ、夜も昼も眠れずにむずかるクシユラに、彼女の母親は生後4カ月のときから絵本の読み聞かせを始めます。彼女は絵本に強い関心を示すようになり、5歳

になるころには「知能は平均よりはるかに高く、社会的にも十分に順応している」と言われるようになります。

著者は書いています。「クシユラの読んだ本が、クシユラに大勢の友だちを与えたことこそ、何よりも重要である。ひよつとすると、クシユラしか知らない暗くて寂しい場所へお供したのは、本の中の住人に他ならないのではないか、と思う」

豊岡市が朝の読書やボランティアによる読み聞かせを小中学校で展開していることをご存じでしょうか？

本の中の世界に子どもたちが想像の翼を広げてくれることを期待して、活動が続けられています。それは子どもたちの人生を豊かにする努力でもあります。

「ツリーのしたにはいろんなどうぶつがとうみんでいます」「ゆかいなもりのツリーはどっしりとねをおろしてはるまでねむっている みんなをまっています」これは、毎晩お話を読んでくれる母親のイメージだったのかもしれない。